

新婦人の仲間とともにパワーアップ!



選択的夫婦別姓を求める署名を訴えて

熊本県の東部に位置し、緑川や御船川の源流を持つ豊かな自然に恵まれた山間地・山都町で2024年11月、5人で班を結成しまし

熊本

「何でもおしゃべりしたい」と班結成

県直属 和井わい会班

た。きっかけは、九州電力川内原発の再稼働反対集会を機に読者になった山田富代さん(68・仮名)に、県本部が「地元」に2人会員がいる。3人になったら班がつくれますよ」と呼びかけたことです。

この間、山都町は過疎化がすすみ、東京ドームの約4倍にあたる産業廃棄物の最終処分場建設や保育園閉園、日米共同訓練など町民の暮らしを脅かす問題が次つき起こっています。山田さんは、「地元では意見を言っても

仕方がないと、政治の話ができない人がいる。政治についてさっくばらんに話せる新婦人の仲間をふやしたい」と決意。さっそく地元の読者2人に、「新婦人の班をつくらせて、楽しくおしゃべりしませんか?」とお誘いすると、二つ返事で2人も入会。

初めて開いた班会には5人が集まりました。新婦人しんぶん『マイナ保険証強制しないで』『保険証のこし』(24年11月23日号1・2面)を読み合うと、「いろんな情報とひもつけられているマイナ保険証を持ち歩きたくない」など、保険証の問題点が次つき。



会員のリンリンコさんが、班会や町の様子を描いてくれたイラスト

班名について話し合い、「やっぱり女性は平和を真剣に考える人が多く、パワーがあるよね」「ゲストを誘ってわいわい何でも話せるような班になりたい」「運動をすすめるパワーは井戸端会議のように自由におしゃべ

りすることから生まれるよね」と。班活動で大事にしたい「平和」と「井戸端会議」と「わいわい話す」ことから、「和井わい会」に決めました。

「2025年は参議院選挙(7月)のある年、新婦人しんぶんをつかって政治についておしゃべりし、お出かけするなど楽しい班会を企画して仲間を迎え、日常の暮らしを足元から考えたり、政治を考える人を増やしたい」と山田さん。

新潟

みんなの「やりたい」で班が3倍になったよ!

新津支部あおぞら班

あおぞら班は点在していた会員が集まって、2年前に3人で結成しました。「会員が少ないと寂しいよね」と話し、毎月の支部委員・班長会議で他の班の仲間づくりの工夫を学んで、ゲストを誘える楽しい班会を大切にしています。



ランチ、植物園でお花見ランチはどちらも好評でした。春の歌声班会にはゲストが6人も参加して驚きました。班に小組はありませんが、班会にゲストを誘って仲間を増やしています。

お誘いの力になっているのは班会でのしんぶんタイム。12月は『聞いてほしい不登校の実態』(24年11月30日号1・2面)を読み合っていて、今こんなことになっているんだね」とびっくり。新婦人の

運動も確信になり、「いまこそ声を集め、力を合わせる時」にみんな納得。「いいしんぶんだから」といつで

も宣伝紙を持って、気軽につながりに広げて読者を増やし、その読者を班会にお誘いしています。新津支部のある秋葉区には政令市でありながら、児童館が一つもありません。市民の会ができて、署名集めでもがんばっている新婦人



餃子パーティー班会でしんぶんタイム

ん。いま「児童館をつくって」の運動が広がっています。市民の会ができて、署名集めでもがんばっている新婦人

は、「1万人分集めて、秋葉区に児童館建設を実現したい」と頼もしい存在です。2024年は、平和の鐘つきとランチ班会(8月)で1人入会。さらに、支部のハロウィンカフェ(体験会10月)に誘ったゲストが、新婦人を身近に感じて入会し、会員は9人になりました。11月は会員の家で「餃子パーティー」班会、12月は新会員の歓迎会を開催。これからも楽しい班会を工夫して、早く2ケタの班になるようがんばります。



さいたま市 石崎日出子



滋賀・高島市 竹岡正子



長野・佐久市 平林喜美代



名古屋市 佐藤五子